

『物流見学ネットワーク』で初の見学会を開催

倉敷の赤崎小学校が日通・水島海運支店を訪問「港の物流」を見学

当連合会はかねてより「物流業界の社会的認知度の向上」の一環として、小中・高校生を対象とした物流施設見学の紹介・斡旋を会員団体・企業の協力を得て物流連のホームページより行っておりました。

ホームページには会員企業の施設 67 箇所を掲載し、受け入れ体制を整えておりましたが、この度、そのホームページ上から初めての申し込みがあり、1 月 31 日（金）見学会が実現いたしました。

物流施設を見学したのは、岡山県倉敷市立赤崎小学校 5 年生の児童と先生方約 100 名が日本通運株式会社水島海運支店（矢吹均支店長）を訪れました。

当日は、天気は良かったものの風の強い一日となりましたが、海上コンテナの荷役風景や物流センター内でのコンテナのバンニングなどを見学、普段目にする事のない大型荷役機械を熱心に見入っていたほか、「どんな貨物が多いのか?」「一番忙しい時間帯は?」等々積極的な質問も飛び交いました。

赤崎小学校の一行は大型バス 2 台に分乗して午後 1 時に水島海運支店に到着、そのまま日本通運が利用している外貿埠頭に移動し、ガントリークレーンやストラドルキャリアが行き交う前で、水島海運支店の須賀孝次長が水島港の概要や港での仕事などを説明しました。

水島港は日本有数のコンビナートを擁する水島臨海工業地帯を背景に重厚長大型の港湾として発展し、貨物取扱量で日本 4 位にランクされる中・四国最大の国際貿易港であり、近年では中国・韓国等の貿易拡大に伴って輸出入コンテナの取り扱いが急増、岡山県の地場産業でもある衣料品やシューズ、ホームセンターで販売される一般雑貨品など一般消費者に身近な貨物も増えています。（05 年度のコンテナ取扱量は 15 万 3,000TEU で国内 13 位にランク）

こうした概要を小学生向けに噛み砕いて説明をしていましたが、日本通運側では同社が小学生向けに作成したパンフレット『今日は楽しいお買い物』を事前に小学校に送り、「予習」をサポートするなどの配慮もしていたため、児童たちの理解も進んだようでした。

その後、リーチスタッカーによる海上コンテナ荷役をバスの中から見学し、続いて税関のコンテナ検査センターに移動、トレーラが海上コンテナを積んだまま施設内に入り、X 線による貨物検査を受ける風景も見学しました。

その後、さらに日本通運水島海運支店が昨年新設した物流センター（約 10,000 坪）に移動し、海上コンテナに貨物を積み込むバンニング作業を見学しました。センター内ではちょうど田植えの時期を前に、韓国向けに輸出する農機具の出荷がピークを迎えており、児童たちは 40 フィートコンテナへの積み込み作業を興味深そうに見守っていました。

ここで当初予定されていた見学ルートは終了でありましたが、当日にタイからの輸入米5,000 トンを積んだ船が入港したこともあり、日本通運側の計らいで急遽見学することになりました。バスの中からの見学となりましたが、岸壁に接岸した大型貨物船からバラ積みされたタイ米をクレーンで荷卸しし、トラックに積み替えする作業を間近で見ることができ、児童たちは大変喜んでおり、充実した見学会となりました。

当連合会は、更にホームページに登録・掲載する「見学可能な物流施設」の募集を進め、少しでも多くの児童・生徒に物流を間近に見ていただき「物流の社会での係わり」を理解していただくよう務めてまいります。

会員の「見学可能な物流施設」の登録は、物流連ホームページ[<http://www.butsuryu.or.jp/>]より随時受け付けしております。お問い合わせは物流連事務局まで（03-3593-0139）

また、今後は中学生による「職場体験」についても積極的に会員企業・団体を中心に受け入れ先のネットワーク化等を進めてまいります。

以上

社団法人日本物流団体連合会
政策・広報委員会事務局
担当：西城
電話：03-3593-0139
Fax：03-3593-0138
Mail：saijou@butsuryu.or.jp

* 次ページに写真を添付致しております。



大型荷役機械を前に水島港の概要や業務の流れを説明（児童たちは安全のため、全員ヘルメットを着用）



海上コンテナへの貨物の積み込みを熱心に見学



説明に熱心にメモをとる児童たち
（後方にあるのは韓国向けに輸出する農機具）



バスの中からリーチスタッカーによるコンテナ荷役を見学



当日入港したタイ輸入米の陸揚げ風景



水島海運支店の物流センター内に入る児童たち